

災害に強い町を目指して

大磯町長 中崎 久雄

昨年の熊本地震では約20万人の方々が避難し、全壊約8,700棟、住家被害計が約20万棟と大きな被害が発生しました。本町でも昨年は台風9号の接近の影響で、町内全域に避難勧告を発令しました。幸いにも本町では大きな被害には至らず、また人的被害も発生しませんでした。全国的な災害発生状況を見ますと、風水害や地震など、いっどこで起こってもおかしくはないと、感じております。

私は、町民の皆さんに「災害が起こった時に町にできることには限りがあります。」と言いつづけてきました。災害に立ち向かうには、町民の皆さんが助け合う一人ひとりの力、すなわち『自助』『共助』が必要であると



今後も町民の皆さんとともに、災害に強い町を目指してさらなる強化に努めてまいりたいと強く考えております。

9月1日は「防災の日」

大正12年9月1日発生した関東大震災（関東地震）により国はこの日を「防災の日」に決めました。



大磯駅の被害（大磯警察署編「震災記録」）

大正一二年九月一日午前一時五八分、相模湾北西部を震源とするマグニチュード七・九の激震が関東地方を襲った。当時、町なか南本町通りにあった大磯警察署（現在の大磯消防署位置）は「警察日誌」でつぎのように記している。

震災二関スル九月中ノ警察日誌
ヲ左ニ掲ゲ

九月一日 土曜 晴
大地震

署ノ時計八午後零時十分、署長八其ノ室ニ在リテ中食ヲ執ラントシ、署在員平根巡查部長ハ、水島・神谷両巡查ト共ニ高等事務室ニテ選挙事務ニ、高野沢稲富、五木田、門馬、渡辺ノ各巡查ト佐藤衛生技手、藤田電話工夫等ハ各担当事務ヲ管掌シ居タ

ル利那俄然大震動起リ、大音響ト共ニ庁舎激動、本箱其他ノ備付物品顛落シ、壁ハ剝脱落下シテ起立歩行困難、今ヤ庁舎崩壊セントス、署員ハ身ヲ以テ庁外ニ避難シ、署長ハ署員ノ避難ト激動ノ静マルヲ待テ署外ニ出ツ、此ノ激動三分時以上ヲ出デス、署外ハ全潰、半潰ノ家屋算ナク、天空朦々陰暗トシテ間断ナク強烈ノ余震襲来シ、妖音何レニカ発シ、道路、空地ニ避難セル人々ハ跪座、又ハ俯臥シテ顔色蒼然唯救ヲ求ムルノミ、時下町方面ヨリ海嘯来ルト叫号避難シ来ル者アリ、平塚方面ニ当リテ一大音響ト共ニ黒煙天ニ沖シ、其ノ附近ニ白煙ノ朦々立昇ルアリ、大火災ノ各所ニ発生セルヲ思ハシメ、日光為メニ光ヲ失ヒ展望自由ナラズ

大磯町史から抜粋

列車転覆現場（大磯警察署編「震災記録」）

